

資料 2

第2回WGでの意見の取りまとめ



第2回ワーキングでの議論

民間のデータ利活用

- 民間企業が持っているデータを囲い込みたいのは当然。公開するインセンティブが必要。
- 知名度向上やコミュニティの活性化、宣伝効果は必要。
- 公共性の高い交通データなどは公開することで新しいサービスが生まれ、利用者が増える可能性がある。
- 一つの成功事例を作る活動を行っても良いのでは。
- データのサンプル例をもっと出して導いてあげる仕組みというのがあってもいい。
- 北海道をデータの発信基地にするのであれば、一般市民も巻き込んで行うべき。
- 民間のデータも重要だが、どうやって集めるかが課題。
- 民間がデータを公開してメリットを得るサービスはすでにあり（「Kaggle」「SIGNATE」「国立情報学研究所（NII）」「ヒーローズリーグ」など）。
- データを使ってもらうことでメリットが得られるエコシステム、サイクルみたいなものが生まれるとうまくまわっていく。

第2回ワーキングでの議論

行政のオープンデータ

- 令和3年度は、先につなげるためのしっかりとした議論することと、データに対する理解を啓蒙していく。
- 令和4年度は、道が持っているデータの棚卸しを行い、どういうデータが出せるかをしっかり理解して調査し、ワーキンググループの提言が繋がっていくということが重要。
- ロールモデルというか、事例を作り、それを使ってわかりやすく説明していくことにつなげる。
- 長期的には、データをどうやって公開するのか、どうやって作るかを検討する必要あり。
- 道のHPでは、PDFで毎日更新しているページもある。大変だと思う。
- データが一元管理されていて、データを出すところがきちんと作られていれば、データ更新することで自動でアップデートする仕組みが出来る。
- 30年後50年後の子供孫世代に今の作業と同じことをやらせるかという点あり得ない。

第2回ワーキングでの議論

令和4年度事業計画について

- (棚卸し調査は) 幅広く展開できるような何か典型的なデータで、なおかつ民間ニーズの高いものを選ぶことができれば良い。
- データを作るところから、データを公開するまでを一元的につなげるようになれば良い。
- スキルや知識が無いと価値あるデータに気づかない。そのためにはデータアカデミーは有効。
- データアカデミーに参加する職員は、熱意のある職員だけでなく、年齢、役職を縛らずに参加できると良い。
- オープンデータを作る際に、どこの自治体も同じようなデータを入力するので、どこの自治体のデータも見られるデータベースがあれば良い。
- 職員の手間が減るようにならないと絶対に進んでいかない。
- データから生まれた成功事例、成功体験が何らかの形で職員に見えると、データの利活用や公開を推進する気持ちが生まれる。
- データを作成する手間も税金。お金をかけてこんなに無駄なことをやっていると市民に公開すべき。
- 行政の方がオープンデータを作るということは、今はゼロベース。行政の方には知的な作業に時間を割いていただきたい。
- 数値データだけがオープンデータになるのではなく、コンテンツ自体もオープンにしていくという大きな流れがある。→データ活用をアートにつなげる (例：九谷焼の柄のオープンデータ)

第2回ワーキングでの議論

まとめ

民間企業の データ 利活用

インセンティブや宣伝効果が必要

民間企業がデータ活用をする成功事例を作る

データを使ってもらうことでのメリットを得られるサイクル

行政の オープン データ ・ R4事業

データの棚卸し調査をしっかりと行う

データを扱う職員のスキルアップが必要

データ作成を業務フローに組み込み、手間を減らす仕組み作りが必要

北海道オープンデータハッカソンの 実施結果



北海道オープンデータハッカソンの実施結果

日時

令和3年10月9～10日

場所

オンライン開催

内容

9月25日に事前勉強会開催→Youtube配信

ハッカソン参加人数 18名（4チーム）

ハッカソン成果発表 10月16日

<成果>

- ・災害時の見守りアプリ（最優秀賞）
- ・野生動物表示マップ（優秀賞）
- ・雪かきマッチングアプリ（審査員特別賞）
- ・バス、観光地情報マップ（審査員特別賞）

成果については
北海道オープンデータポータルにて公開予定

参加者アンケートのまとめは別添

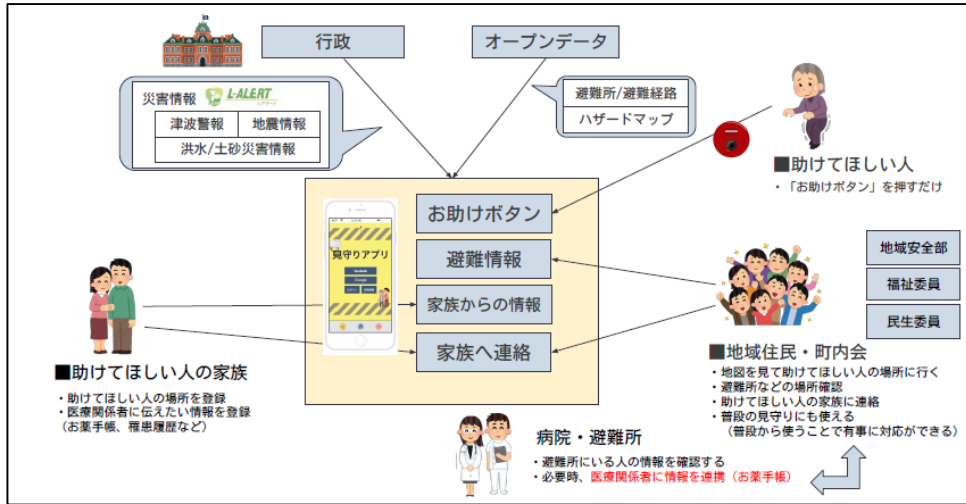


審査員に川村さん
運営のお手伝いに湯村さん
参加者として井口さん
主催者として林さん、森さん
お手伝いいただいた方々、ありがとうございました

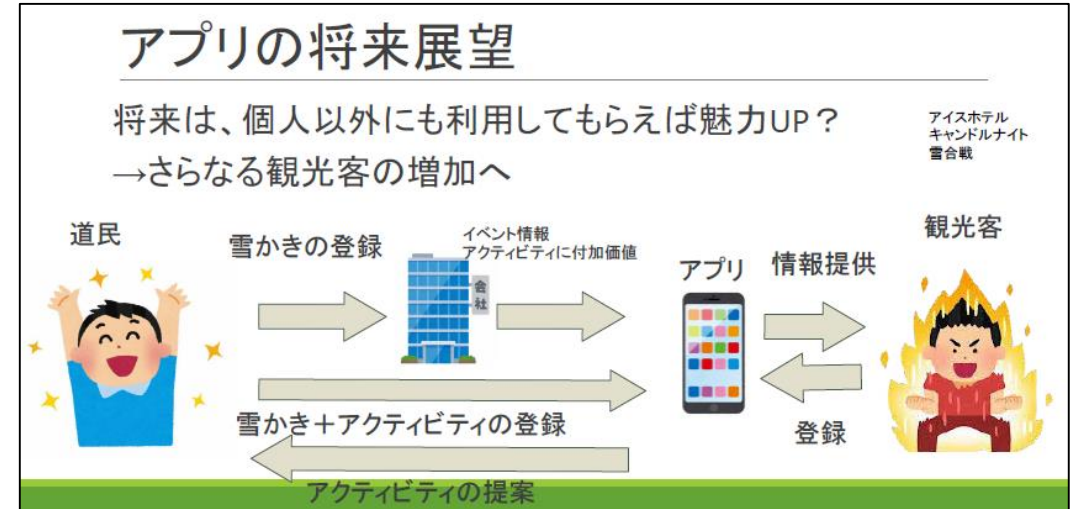
北海道オープンデータハッカソンの実施結果

ハッカソン成果発表資料（抜粋）

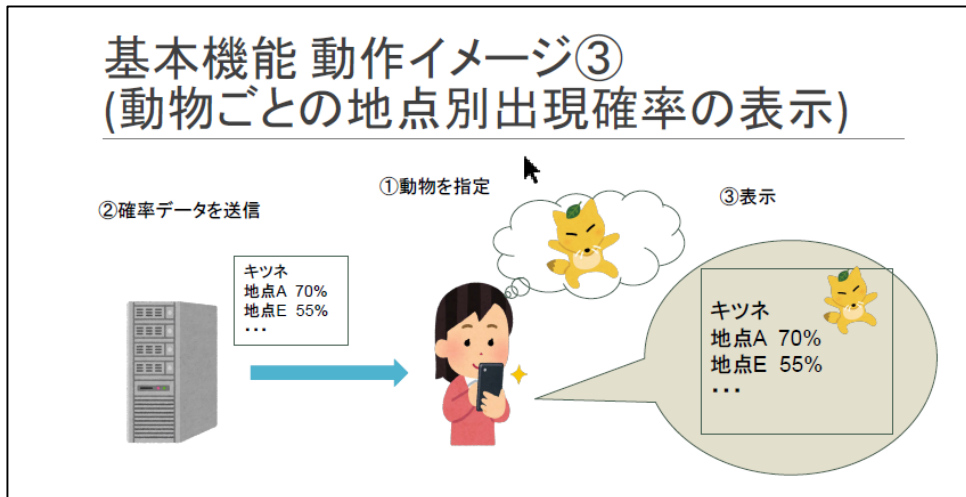
○災害時の見守りアプリ



○雪かきマッチングアプリ



○野生動物表示マップ



○バス、観光地情報マップ

